

花と緑の石川台

石川台中学校、今年の体育祭のスローガンは「百花繚乱～けやきの木の下で～」でした。このスローガンは、生徒たちが意見を出し合ったものを生徒会役員が集約して出来上がりました。一人ひとりがそれぞれの花を咲かせるべく、精一杯取り組もう、という生徒たちの思いが込められています。「～けやきの木の下で～」とあるように、生徒たちは石中のシンボルツリーであるけやきの木のことも忘れていません。「石中生はいつも自分たちの身近に花と緑を感じているのだ」と改めて思いました。美しく咲き誇るバラや可憐なすみ草、主事さんが手入れし、校内に飾っています。色鮮やかなシバザクラやベコニアなど、学校支援地域本部の方が時間をかけて育ててくれます。PTAの園芸部は校内の梅やしモン等の果実の収穫をし、和気あいあいと活動しています。

花と緑に囲まれているということは、花と緑を大切にすること。ひとつの生命を慈しむということです。私たち石中教職員は、そのような、情操の豊かな生徒たちを育てていきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

（雪谷石川台・石川台中学校副校長 小菅みちる）

わが街の神輿

また祭りのシーズンがやってくる。大神輿、小神輿が街へ繰り出し、山車が引かれる。渡御の途上に休憩所が設けられ、近隣の人たちが接待する。響き渡る担ぎ手の掛け声、鈴の音、大太鼓の音、街が活気づく。他地区からの助っ人さんが言う、この神輿はすごいね・・・と。

南雪谷自治会の所有する主な神輿は、台座の大きさが二尺五寸（約75cm）の大神輿と一尺五寸（約45cm）の小神輿の二基で、いずれも、彫刻師として名高い千葉県行徳の後藤茂助氏の手になる。これが「すごい」と言われる所以である。昭和27年に大神輿が、翌年に小神輿が竣成し、並行して山車と格納庫も建造された。これらの費用に充てるため、昭和26年、27年の二度にわたり募金が行われたが、いずれも目標を上回る金額の寄付を集めることができた。そのころといえばまだ終戦からの復興の途上で、人々の懐も決して豊かではなかったはずである。戦後の自由な雰囲気のもと、街が急速に発展するなかで、日本の伝統もしっかり守らなければという思いから寄付が行われたにちがいない。

募金者の氏名と共にこれらの経緯をしたためた小冊子が大神輿に納められている。渡御と共に、先人たちの思いが街をめぐる。

（南雪谷・河野洋一郎）



リタイヤしてから

新緑の美しい季節になりました。私は、上池台に住まいして40年になります。趣味と健康管理をかねて、ロードバイク（自転車）に乗っていますが、最近はロードレースを見に行つて応援するほうに力が入っています。毎年、5月は大井埠頭で「ツールド・ジャパン」を観戦しています。

「ツールド・フランス」とか「ジロ・デ・イタリア」は、どこかで聞かれたことがあると思います。どちらも100年以上の歴史があります。日本人も諸先輩方が過去にも出場し、現在、新城・別府両選手が活躍しています。

三週間かけて自国内を一周するのですが、各地の熱狂的なファンの応援姿、美しい景色と歴史的建造物が世界に向けて発信されます。放送されない話題の一つを書いてみます。

2000名近い選手が集団で通過するコースの一時間位まえに、キャラバン隊という車列がじゅずつなぎで来ます。スポンサー企業・団体が車上でパフォーマンスをしながら、PRグッズを有り余る程バラ撒いて行くのです。飴・菓子の食べ物系、帽子などのウェア系、旗などの応援グッズ・バッグ・ペンライト等々、さまざまな商品を毎日です。子供からお年寄りまでお祭りのように楽しんでいます。私達は、ここで拾ったグッズがあるので、帰国のお土産は買わないですんでいます。

話はガラッと変わって「防災」についてです。防災対策で大事なことは、「自助」です。「死傷者を出さないこと」と「備えあれば憂い無し」です。自宅で継続して避難できるように備えたいと思っています。

（大森十中避難所運営協議会会員です）

（上池上・竹内三秀）

** 編集後記 **

「心地よい音色を求めて」の原稿を読ませていただいた時、あれ！家にもオカリナがあるぞ、ふと思いました。何時どこで買ったのか誰かに頂いたのか思い出せません。然も曲は吹けませんが音を出した記憶はあります。数日後探してみたところ緑色した可愛らしいオカリナが出てきました。風薫る五月正に今、新緑の中から爽やかな音色が聞こえてきそうなそんな気がした瞬間でした。他にもでてきました「ハーモニカ・尺八・トレーニング用具」等使われずに眠っている品々が。世に言う宝の持ち腐れだったのか？いやその時はきっとやる気で手に入れたのに違いないと、そんな言い訳を考えた自分でした。皆さんにはそんな経験は有りませんか。

私ごとですが、長い間本誌編集委員としてお手伝いさせて頂きました。この度本号を以って後任の倉田さんにバトンタッチする事になりました。ご協力頂きました地域の皆様、ご指導を頂きました編集委員の皆様には心から御礼申し上げます。有難うございました。

好奇心多きジージ（私）オカリナ練習しようかな？

（雪谷石川台・大槻 生）

ふれあい雪谷(創刊:平成2年(1990)12月20日) 年4回発行
[1月:新年号/4月:さくら号/7月:あさがお号/10月:もみじ号/の1日発行]
[発行日] 平成30年(2018年)あさがお号 7月1日(通巻:第111号)発行
[発行] 地域力推進雪谷地区委員会[編集]「ふれあい雪谷」編集委員会
[連絡先] 雪谷特別出張所
〒145-0065 大田区東雪谷3-6-2 電話3729-5117 FAX3729-1826

http://www.city.ota.tokyo.jp/chofu/ts_yukigaya/index.html

ふれあい
雪谷

平成30年7月 あさがお号 通巻第111号

雪谷特別出張所管内(平成30年4月1日現在)

世帯数/30,433世帯(対前年比 223世帯増) 総人口/61,700人
男/29,818人(対前年比47人増)・女/31,882人(対前年比127人増)
※外国人住民を含めた数にしております。



キュウリの苗を植えたよ。
(お泊まり保育でたべようね)

池の台・東京昭和幼稚園 年長(女兒) 5歳

心地よい音色を求めて

笹丸自治会で実施している「オカリナの会」が今年の7月で丸1年を迎えます。そもそもこの会は「ふれあい雪谷」がきっかけで誕生しました。昨年のあさがお号に「オカリナの魅力」として書かせていただき、オカリナを始めてみませんかと呼びかけたところ、ふれあい雪谷の編集部早速問い合わせがありました。まだ何の準備もなかった笹丸自治会ですが、すぐにチラシ（ポスター）を作りました。

掲示板にポスターを貼り出したらすぐに、なんと10人以上の方から参加の申し込みがありスタートした次第です。現在、中高年の方がほとんどですが、17名の会員が、笹丸自治会館で、月2回、1回1時間半練習しております。今までに「カエルの合唱」や「富士山」などの唱歌から「ザ・ファースト・ノエル」「アメイジング・グレイス」そして「北国の春」などジャンルを問わず練習してきました。

オカリナの練習ポイントは3つあります。①**息づかい**（ブレスコントロール）②**指づかい** ③**舌づかい**（タンギング）の3つです。練習を始める前に深呼吸をしたり、軽いストレッチ体操の様なことをとりいれたりしてリラックスして吹くようころがけています。また、指をスムーズに動かす練習として手話の指文字（指で五十音を表わす）の練習なども取り入れてみました。考えてみるとどれも健康に良いといわれる行動だと思うのですが、如何なものでしょうか。因みに、私もオカリナを始めてから冬場の風邪などひかずに元気に過ごしているのですが、たまたまでしょうか。

オカリナは単純な楽器ですぐに音を出せるので楽譜に慣れてしまえば、色々な曲に挑戦できると思います。残る問題は自分が心地よいとおもえる音色をだせるようになることですが、こればかりは練習するなかで自分で見つけてもらうしかありません。

この会も2年目を迎え、今はグループの名前を決めようと皆で案を出し合っています。また、オカリナの楽しさがより増すために、アンサンブル（パート分けをした合奏）の練習も始めたいと考えています。2年目に入る8月からは気分もあらたにオカリナの音色を楽しんで行きたいなあと思います。そして、いつか、どこかで発表会の様なことが出来て、皆さんに聞いてもらえたらいいなあ大きな夢を持って（私だけかな？）練習に励んでいます。

「オカリナの会」の皆さん！頑張れ！

尚、オカリナの会では新入参加者の方を何時も歓迎しております。

（笹丸・小林忠雄）

♪オカリナの会

申込先：森信節子

電 話：03（3727）5907



清明学園 雪谷の地に根付いて88年

昭和5年、この雪谷の地に創立以来、清明学園初等学校は88年目を迎えました。初等学校創立後、昭和8年には幼稚園が開園し、また、昭和26年には中学校が開校し、幼・初・中の一貫教育を実践しています。現在、初等部の在校生は388名です。



創立当時の写真を見ると、今では住宅地として栄えているこの雪谷も、当時はほとんど建物もなく、ススキが覆う田園地帯で、今では想像もつかないのどかな風景が広がっていました。創立者の濱野重郎は、この雪谷の高台から眺める景色がすばらしいと感動し、ぜひこの地を子どもたちの楽園にしたいと願って、今の場所に学校を建てることを決意しました。

創立時に当時の教職員と入学を決めた児童の保護者など数名の手により、まさに手作業で植えられた桜の木は、今では樹齢百年近いりっぱな大木となり、毎年春には新入生を迎えるように、きれいな花を咲かせています。

東京には私立の小学校は54校ありますが、戦前からの学校は数少なく、また【小学校】ではなく、【初等学校】と言っているのは、戦前からある一部の私立小学校だけです。先の太平洋戦争開戦直前に、当時の文部大臣の国民学校令発令が、そのきっかけとなりました。「すべての小学校は、国民学校と改め、私立小学校の存在を認めない」とした国の方針は、戦前からある小学校に大きな衝撃を与えました。当時の数少ない私立小学校が結束して【初等学校】としての存続を訴えました。そのおり東京及び全国の私立小学校の先頭になって、国と交渉したのが、学園の創立者濱野重郎です。

建学の精神は、大正自由教育の流れをくんだ、『個性尊重』教育です。子どもの自然成長発達を研究し、その自然な成長に合わせた《子ども本来の姿》に、心から寄り添った教育を実践しています。初等学校から入学の子は義務教育修了までの9年間を一貫してお預かりし、発達段階に合わせて、1・2年生を「夢の時代」、3～7年生を「基礎学力の徹底」、8・9年生を「受験指導」と分け、また、心身の成長に合わせて初等部は5年生までで、6年生からは中等部として生活することも、私学ならではの実践です。なお、校名は「清き明（あか）き正しき直き心」を表わし、校章のとんぼは、自由で悠々と大空を飛翔する子供の姿に重ねています。

雪谷の発展と共に歩んできた清明学園を、今後ともよろしくお願い申し上げます。

（清明学園初等学校 校長 横山豊治）

職員の異動について

4月1日付で、雪谷特別出張所職員の異動がありました。牧井正幸所長、鎌田弘行、藤條弘之、片平あゆ実が他所へ異動しました。新たに井村陽介所長、湯浅康司、岡崎唯道、藤原友美が赴任しました。どうぞよろしくお願いいたします。

救世軍機恵子寮 子ども達の生活

前号のさくら号では、山本正晃施設長が機恵子寮の成り立ちを紹介させていただきましたが、今号では、上池台に立地する意味について少しふれさせていただきます。

社会福祉施設は、いつの時代も社会の要請によって、変革が迫られています。機恵子寮も、昭和8年にこの地に開設され、その後何回かの建替えや増築、改築を行ってきました。平成25年11月に建て替えました時も、いくつかの変革が求められていました。そのひとつが地域小規模児童養護施設です。いわゆる児童養護ではグループホームと呼ばれているものです。

機恵子寮の場合も、2軒のグループホームがあります。本体施設の近くに、ごくありふれた家での生活を目指しています。また本体施設も、生活単位をなるべく小規模にすること、できるだけ家庭に近いようなかたちに改築するよう求められていました。そこには、深い意味が込められていて、やはり子どもの育ちは地域と密接な関係があること、地域力に期待するところが太いにあります。子どもが社会的自立をしていくためには、社会との関係の中で育っていくことが望ましいこと、つまり多様な人々から気遣われ、配慮されることが子どもの自尊心や生きる意欲が生まれる面があること、同居家族だけに育てられるのではなく、親しい人たちから見守られ育まれることが、社会性や人間性を培っていくには必要なことなど、とても重要な意味が込められています。

機恵子寮は都内でも、指折り数えて小さな施設です。敷地が大変狭いので、施設の近隣に在る公園等をよく利用しています。子ども達の一番人気はやはり小池公園です。時には三丁目公園にも足を延ばしますが、意外と三本松公園に行くのを望む子もおります。時々、近くの方から言葉をかけていただくと、それは私たち職員にとっても、何よりの励みになります。小池駐在所さんも色々な意味でお世話になっています。地域で行われる種々のイベントも、子どもたちにとっては、かけがえのない大切な思い出の一つになります。

前述しました平成25年の建て替えの時も、移転の意見も出たのですが、近隣の方に暖かく見守られているこの大切な環境を手放すわけにはいかないという強い意見があったということです。何気ない平穏な暮らしの中に、生活の大切さを感じたり、将来に向けての希望が芽生えたりします。その土地が好きというのは、風景などもその理由の一つとしてあるのですが、他には、そこでのさりげない優しさや温もりのようなものが感じられる場所、それは暮らしてみないとわからない実感でしょう。そして、そういったものが子どもたちの成長にとっては、

とても重要な意味があるのではないかと
思っています。

（小池・機恵子寮職員 K.Y）

